参加者感想文

LOVE
&
PEACE
HAPPY

制施行
周年
の人々が、
平和な世界に
周年
幸せを未来へ！

Piece
&
Piese
in
earth

「広島に行って感じた平和の尊さ」

開成中学校　一年　林　公飛

以前から，広島について学校で学んだり，自分で本を，読んだりして，知識はそれなりに持っていたと思います。しかし，今回見た原爆による人や物への傷あとは予想をはるかに上回るものでした。

２日目平和記念式典出席後，一行が訪れた原爆資料館は有名な人影の石や，ゆがんでがたがたになった鉄骨など原爆による広島市街の被害展示がありました。よく見ると熱によって石が白くなっていたり，表面が泡状になっていたりと原爆の熱が当たったのは一瞬なのに，これほど強かったのかと，非常に驚きました。また，爆風によって飛んだガラスが突き刺さって血だらけになった服，白骨が混じったガレキなどもあり，いたたまれない気持ちになりました。また，これも有名ですが，被爆した三輪車を見て罪のない小さな子どもを無差別に殺してしまう原爆を恐ろしいと思いました。

しかし，原爆の恐ろしさはこれに留まりません。原爆は物理的な衝撃に耐えても，体を蝕み精神までも蝕む恐ろしい放射線を大量に放出するのです。

ぼくたちは，兒玉さんという爆心地から８７０ｍで被爆したかたの話を３日目にうかがいました。兒玉さんは，脱毛，熱などの病状が起こり，熱は４２度まで達したそうです。また，じゅう毛が全部そがれているため，２・３年間はげりが止まらなかったとおっしゃっていました。ウイルスが体内に入っているのに，放射線で体はずたずたで栄養をうまく摂取できないのは大変だろうなと思いました。これらの病状は急性原爆症というらしいですが，この病でかなりの人が死んだらしいです。せっかく生きのびたのに，追い討ちをかけるように放射線で殺すのは，とても非道な武器だなと思いました。さらに，急性原爆症を生き延びても放射線により染色体異常が起こり，がんや白血病の確率が高くなるそうで，兒玉さんは１０２個の染色体異常，１９回のがん手術をしているそうです。人の体を蝕む放射線。そんな放射線を出す核兵器が世界にたくさんあると考えただけでも恐いです。

今回，広島に行く機会を得て訪れた事で，今迄感じていた原爆への漠然とした思いや恐怖が３日で急に鮮明になりました。

この原爆の恐ろしさや被爆した人の無念さや平和の尊さを忘れず，これからの時代を歩み，そしてぼくたちの次の世代へ伝えていきたいです。

戦争がなく平和であることのありがたさ。生まれたときから享受してきたこの平和が永遠続くことを祈らずにはいられません。

そして，これからも平和の為に何ができるか考え，これからの時代をより平和にするために今回の経験を生かし歩んでいきたいです。

「平和への道」

駒場東邦中学校　一年　村山　翔一

僕が，この中学生広島平和派遣に参加するきっかけになったのは，母のすすめであった。母がすすめてくれなければ，自分はこうして３日間の平和派遣に参加し，そしてそれを思い返すことはなかっただろう。ではここに，この３日間で自分が見，聞き，そして感じたことを書こうと思う。

始めから恥ずかしい話であるが，正直広島駅までの新幹線の車内などは，観光に来ているかのように楽しんでしまった。

だが，原爆ドームの前に立った時にはすっかり変わってしまった。テレビでしか見たことのなかった原爆ドームをすぐ近くで見た僕は圧倒的な衝撃を受けた。ドームの周りに散らばるがれき。レンガが丸見えになった壁。鉄骨のみになったドームの部分。とてつもなく無惨な姿だった。被害がここまでのものだとは，まるで予想もしていなかった。かつて，広島県物産陳列館としてにぎわっていたあのころの姿を一変させたのはなにか。そう，原子爆弾，通称原爆だ。

原爆の子の像で感じた，佐々木禎子さんの苦しみ。平和記念式典や広島平和記念資料館で感じた，亡くなった方々の苦しみ，兒玉さんの話で感じた，生き残ってもなお，仲間を救えなかった，放射線のための苦しみ。その全てがたった一発の原爆のために生まれてしまったものなのだ。

今もなお，核開発や核実験の終わりは見えてない。いくら核兵器で強さを示し，戦争を起こさせないとはいえ，兵器は兵器だ。人を殺す道具にすぎないのだ。そんなもので国家の力を示すようでは，いつになっても本当の平和はおとずれない。

しかし，この問題は必ずしも政府間だけでの問題ではない。政府に政策として軍縮を求めるためには，国民である私達一人一人の平和への願いを持ち，それを「声」にして伝えていかなければならない。実際，終戦から７０年たった今でも戦争で起こった事が僕たちの世代まで受け継がれてきている。これは，戦争を体験した人々が，「声」をあげているからなのだ。

そんな中，最近問題視されているのが，その声をあげる「語り手」の高齢化だ。そのため，若者に戦争の恐ろしさを伝えることができなくなりつつあるのだ。

だからこそ，自分たちが広島という地で学び，感じた事を，家族，友人へと伝えなければならないと思う。自分たちが見たものはまぎれもない真実だということ。そして，それは決して許されてはならないことだということ。それを皆に伝え，この世界が少しでも早く平和へとたどり着くことができるようになってほしい。

「驚きの連続」

調布市立第三中学校　一年　高畠　悠太

私は８月５日から７日まで中学生広島平和派遣に参加しました。

その中で，一番印象深かったのが，３日目の被爆体験者講話です。

広島市文化交流会館の一室の正面にスクリーンがあり，その横に机といすが用意されていて，そこに講師の兒玉光雄さんが座っていました。兒玉さんは中学１年生（１２歳）で爆心地から８７０メートルしか離れていない中学校で，被爆しました。爆心地から１キロメートル以内で被爆した人を，至近距離被爆者といい，ほとんどの人は死んでしまいます。

私が話を聞いていて，驚いたのは，中学校の生徒が３０７人いたけれど，ほとんどの人が死んでしまって，今は２人しか生きていないということです。また，そのうちの１人が講師である兒玉光雄さんということです。

次に驚いたのは，８月６日に被爆してから，急性原爆症で８月１０日頃から脱毛が始まり，８月１２日に頭髪も眉も完全に脱毛してしまい，１５日から２０日に３９度から４２度の高熱がでたということです。

さらに，それらの急性原爆症をどくだみ草という薬草を使って治したということにも，驚きました。

私は，兒玉さんの話す様子をみていると，大きな声で話していて，歩いたりするときにつえを使っていたりはしていなかったので，まだ元気なんだと思いました。けれど，直腸がん，胃がん，甲状腺がん，皮膚がんなどの病気で，がん手術を合計１９回もしていて，染色体から１０２個の転座（染色体が放射線の影響で切断されて，その染色体の切断された部分が，別の切断されている染色体と結合してしまうこと）が見つかっていて，それは治らないものであると話していました。

話の最後に兒玉さんは，「私たちは，核兵器が人類を滅ぼす前に核兵器を廃絶しなければならない。核兵器は地球環境破壊・人類共倒れ。」と言っていました。また，兒玉さんは私たちにこの話を，友達に伝えて下さいと言っていました。私がそれを家族や友人に伝えることで，多くの人が，核兵器は危険で，人の人生がその一瞬で変わってしまうことを知れば，絶対に核兵器・原子爆弾を使ってはいけないということが分かるだろう。

私は，この中学生広島平和派遣で，リバークルーズや，広島城見学，昼食の広島風お好み焼きなど，楽しいときは楽しかったけど，戦争のことについて触れるときは，初めて知ることが多くて，とても驚くことばかりでした。

私はこの旅で，とても貴重な体験をすることができて，とてもよかったです。この旅で，お世話になった方々，ありがとうございました。

「平和な世界に」

調布市立第四中学校　一年　川嶋　琉誠

「あれが原爆ドームか。」

ぼくの心がざわざわした。

調布市の平和派遣の１人となり，広島に行った。初めて見る原爆ドーム。その周りはそこだけ時間が止まっているような気がした。建物のレンガがくずれかけ，ドームの上の屋根はなくなっているのがわかった。写真で見て知っていたけど，直接見ると言葉をなくすほどのすごいありさまだった。

次の日，平和記念式典に出席した。８時から始まったが，気温はどんどん高くなった。強い日ざしが１日中続いた。だから僕はその日だけでペットボトルの水を４本飲んだ。１９４５年の８月６日も暑い日だったらしい。そんな暑い時に原爆が落とされたと思うと，どれだけの熱さを当時の人たちが感じたか，想像もできない。次に平和記念資料館に入った。そこには，へこんだ水筒や黒こげの弁当箱もあった。お昼ごはんがつまっていたのだろうか。平凡な暮らしが一瞬で失われてしまったんだなと思った。人の影が焼きついた石もあった。強烈な光を浴びて，人が腰かけていた場所だけが影として残っていた。その影は，８時１５分のまま止まっているような気がして，その人がすごくかわいそうな気持ちになった。

その次の日，被爆者の体験談をうかがった。校舎で自習をしている時に原爆が落ちた。急にあたりが光でまっ白になり，すごい爆風と熱風で水を求めて外に出るとプールの中に人がいっぱい倒れていた。教室に戻り，がれきにはさまれた生徒を助け出したが，学校はたちまち火に囲まれたので脱出した。助け出せなかった人たちに「すまん。」と思ったと話された。それを聞いて，自分の体もボロボロなのに仲間を助け出す力があってすごいなと思った。きっとその日の暑さだとみんな水を飲みたかったと思う。脱出した後，歩いて元安川に向った。歩いている人たちの中には，皮ふが溶けかかっていたり，力がなくなり倒れる人がたくさんいて，それを見ていると気持ちが悪くなり，その場で動けなくなった。でも，力をふりしぼって歩いたそうだ。熱くて気持ちが悪い時でも，よく歩けたなと思った。その後，放射線が原因で数日後には髪がぬけ始め，急性原爆症やいろいろな病気を経験された。その人が一番恐ろしいのは，放射線だそうだ。それを聞いた僕は，原発などから出る放射線もすごく危ない物なんだと思った。

この３日間の体験を通して，原爆や戦争は恐ろしいことが改めてわかった。特に，原爆の放射線は人間の白血球をなくしたり，死亡させる物なので，僕は一番恐ろしい物だとわかった。二度と原爆を落とすことがないように，戦争がない平和な世界になればいいと思った。

「中学生広島平和派遣感想文」

調布市立第五中学校　二年　小柳　雄平

僕は今回の「中学生広島平和派遣」で戦争について，深く考えさせられました。

そもそも僕は，戦争について，広島に住んでいたことや，「はだしのゲン」を読んでいたこともあって，少々知っている気になっていましたが，実は，知らないことばかりでした。

例えば，平和記念資料館に行ったときのことでした。中に入ってみると，そこには，原爆に関する様々な展示品がありました。原爆当時の遺品や原子爆弾の模型など様々な物がありました。

その中でも衝撃的だったのは，原爆の被害を受けた人の模型です。それは，衣服はぼろぼろになり，血を流し，泣いている親子の姿でした。あまりにもひどすぎて，見るのもつらかったです。

また，最終日には，被爆者の方のお話を聞くことができました。

その方は，ある小学校にいるときに原爆が落ちました。ものすごい爆風のせいで３時間くらい気を失っていて，気が付いたときは，辺りが真っ暗でした。喉がかわいたため，プールに行くと，そこは，他のやけどした人達でうめつくされていました。さらに，水を飲んだ人達が泡をはいて死に，その血で汚染されていました。その後，崩れた校舎から火がつき，そこにとり残されている同級生を助けようとしたけれどもできないまま，置いていきました。逃げている中で広島市は地獄と化していました。多くの人は，腕から指先までの皮を垂らし，「みず～」と叫んでいました。その時，上空には巨大なキノコがたち昇っていました。それから，爆心地から離れたところで，学校に向って，「ごめんね，ごめんね。」と謝っていました。聞いていて，どんなに恐ろしかったろうな，どんなにつらかったろうなと思いました。

放射能を浴びると，まず，気分が悪くなって，熱を出します。次に，高熱になり，４０度近くになります。最後に，熱が下がるが，下痢，おうとが続きます。そして，半年かかってようやく治ったそうです。被爆者本人から話を聞くことができ，実感が湧きました。

原爆で約１４万人の方が亡くなったそうです。この話しを聞いて，この事を忘れてはいけないと思うようになりました。もし，僕に子どもが生まれたなら，僕達が最後の世代だと思うので，このことを伝えなければならないと思いました。

「原爆によってひきおこされるもの」

調布市立第五中学校　二年　進士　拓真

僕はこの夏，今まで味わった事のない体験をしました。それは，世界で初めて原爆の落とされた地，広島に実際に訪れ原爆の恐ろしさを知るというものでした。そこで僕は，教科書や本だけではわき起こらない，とても切ない感情を覚えました。

１日目，新幹線の中で僕は広島について書いてある本をしばし眺めていました。そこには広島市の町の写真がのっていて，東京とまったく違った雰囲気だったのでとても期待していましたが，違うページに原爆の事について書いてあり，それを見て少し緊張が走りました。そして東京から５時間程かけようやく広島駅に着きました。駅を出ると，路面電車が走っていて町も大勢の人でにぎわっていました。そこから僕達は，まず原爆ドームに向いました。そして，目的地へ着くと僕は息を呑みました。ここに落ちたんだな，建物をこんな風にしてしまうなんてなんという恐さなんだ，僕は今，大勢の人々が亡くなり，苦しみ続けた場所に立っているんだ，と思わず言葉にもならない切なさや人々の思い，本で読んだ爆発の情景が頭の中に瞬時に飛びこんできました。とても不思議で，なぜかその場にくるだけで様々なものが感じられました。そのとたん，原爆は恐ろしく，二度と使ってはならないのだと強く思いました。

その気持ちが続くまま，次は原爆の子の像に折り鶴を捧げました。その時に，この像のモデルとなった禎子さんも原爆のせいで亡くなられてしまったのか，どうして罪のない人々がこうして戦争のために死ななくてはならないのだろうと，なんだかとても悲しい感情になりました。

２日目は，朝早くホテルを出て平和記念式典に参加しました。そして，原爆が投下された時間，８時１５分に被爆者の亡くなられた方々へ，黙祷をしました。その最中は，原爆で亡くなられた方々，あの時はとても苦しい思いをされたでしょう，どうぞ安らかにお眠りください。必ずや僕達が平和な世の中をつくりますから，と亡くなられた方々に伝えました。

その後，平和記念資料館に行きました。あの場所には，被爆当時の悲惨さを物語る遺品の数や写真などが展示されてあり，原爆の恐さを改めて感じさせる物ばかりでした。そして，その写真やモニュメントがとても恐ろしく，途中でもう見たくないという感情に襲われました。しかし，これが真実であり，大げさでも何でもないのだと思い，よく目に焼きつけておきました。そして，その夜に平和の思いを書いたとうろうを流しました。夜に光るとうろうは，とてもきれいでしたが，きれいなほど感じてくる切なさも大きかったです。川を見ると，この川は，被爆当時にたくさんの人があまりの熱さに入り，そこが死体でうめつくされたという事を思い出し，とてもショックを受けました。

３日目，最後に，被爆者の方に原爆についてお話を聞かせてもらいました。原爆は瞬時的な恐ろしさが世間一般的ですが，その後も放射能による白血病やがんなどが人体にひき起こり，それで亡くなる人も数多くいたそうです。

今回，こうして広島に行き，現場だからこそ感じるものが多くありました。そして，原爆はとてつもなく恐ろしい物で，そのせいで何千人，何万人の人が死ぬという事実は，後世にずっと伝えていかなければならないと思いました。原爆のない世の中，戦争のない世の中が実現できれば良いなと思いました。

「夏の広島」

調布市立第四中学校　一年　小竹　里奈

私は，広島の原爆について知りたかったので，調布市の中学生広島平和派遣へ応募しました。８月５日から７日まで広島へ行ってきました。

８月５日の朝，調布へ集合して東京駅から新幹線で広島へ行きました。４時間近くかかりました。広島へ到着したら，すぐにタクシーで原爆ドームまで行きました。間近で見た原爆ドームは，広島平和記念碑（被爆建造物）の世界遺産で「二度と同じような悲劇が起こらないように」との戒めや願いをこめた負の世界遺産と呼ばれています。原爆ドームの写真を撮りました。原爆ドームは，上が空洞になっていて骨組みだけで，下にはたくさんのがれきが落ちていました。赤茶色の建造物は古く，歴史を感じました。その後，原爆の子の像へ行き，調布市で集めた折り鶴を捧げました。私も平和派遣で参加が決まった時，家族で折り鶴を千羽折りました。平和を願って一緒に捧げました。たくさんの人が広島に来て，世界の平和を願って鶴を捧げていました。折り鶴は，いろんな色があってとてもきれいでした。その後，リバークルーズで船から原爆ドームを見上げました。原爆があった町とは思えないぐらい今は静かな町に見えました。夕食を食べてホテルに戻り，１日が終わりました。

２日目の朝になりました。この平和派遣の大イベントは，平和記念式典です。式典は，７時半から始まりました。今年は，戦後７０年なので，とても混んでいて熱かったです。毎年テレビで見ているのとは違って，式典は大変混んでいて後ろの席でしたが，安倍総理の演説が聴けました。式典終了後，記念資料館へ行きました。展示の中で，原爆被害はたくさんありました。熱線・爆風・高熱火災・放射線・後障害です。原爆は，様々な被害をもたらし恐ろしく怖いものだと知りました。昼食をとって夜に流すとうろう流しの短冊を作りました。そして，広島城見学へも行きました。広島城からの眺望は，原爆があったとは思えないきれいな景色でした。夕方６時半に，とうろう流し会場へ行きました。６時はまだ明るかったけれど，だんだん外が暗くなり，とうろう流しが色とりどりできれいでした。中には炎上しているとうろうもあったけれど，川にゆらゆらゆれるとうろうを初めて見ました。私のとうろうは黄色で，原爆で亡くなった人達への願いを込めて流しました。

最後の日です。被爆体験者講話があり，放射線はとても怖くガンや高熱が続き，未だに被害者の健康を現在も脅かし続けている事を知りました。昼食は，広島名物お好み焼きを食べて，夕方調布に帰ってきました。

私は，この平和派遣で一番心に残ったのは，核と人類は共存できないということです。戦争をしない，世界の平和を願う平和式典に参加して，戦争と平和の違いがよくわかりました。

「調布市中学生広島平和派遣に参加して」

調布市立神代中学校　一年　原田　桜子

広島に行くまでは，教科書に載っている戦争を知っていました。

しかし，広島には教科書には載っていない思わず目を背けたくなる様な戦争の姿がありました。

被爆体験をお話して下さった兒玉さんは，当時私と同じ中学１年生で，爆心地近くの学校で被爆しました。兒玉さんは逃げる中，多くの人達が苦しんでいる地獄の様な光景を沢山見ました。戦後も，原爆症で苦しむ多くの人を見ました。そして，自分自身も，未だに原爆症で苦しんでいます。偏見や差別を恐れ，被爆者である事を隠している人がいる事も原爆の被害の一つだと思いました。「戦後７０年，原子爆弾はもっとひどい兵器として開発されているだろう。核と人間は決して共存できないのだ」と私達に訴えかけるようにお話して下さった姿が私の心にやきついています。

もし私だったら，あのひどい戦争を，戦後を，歯を食いしばって生きていく気力を持っていただろうか？戦争孤児達は戦後をどう生きたのだろうか？原爆資料館を見た後から，戦争について色々と考えました。家族と戦争について話をしたり，戦争に関するテレビを観たり，調布郷土博物館の戦争の展示を見たり，戦争当時，私と同じ年くらいだった人の体験談を読んだりしました。こんなに戦争について考えた事はありませんでした。

広島だけではなく，日本の７０歳以上の方達は，あのひどい戦争を体験してきているのだと初めて気づき，何て強い方達だろうと思いました。そして，今，平和で豊かな日本で家族と過ごせている私は何て幸せなのだろうと感じています。

お腹いっぱい食べられる事，勉強できる事，家族がいる事，安心して眠れる事，今まで当たり前だと思っていた事に，感謝できるようになりました。同時にこの幸せな日常が無くなるかもと思うと怖くてたまらなくなります。

原爆ドーム・平和記念式典・原爆の子の像，広島には私達のような学生・家族・外国人・様々な人が大勢訪れていました。世界中の人が平和な世の中を望んでいるのだと思い，心強く感じました。皆，原爆の怖さを感じ，戦争をしてはいけない，戦争は多くの人の命・物・希望をうばってしまうものだと感じたと思います。私は今でも，３日間の体験で感じた戦争の恐怖を忘れることができません。

ユネスコ憲章には「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和の砦を築かなければならない」とあります。この体験で，私の心の中には平和の砦が築かれました。ここに書ききる事の出来ない体験をこれから友人や周りの人に伝えていく事で，世界中の人々の心の中に平和の砦が築かれ，地球の全ての地域から戦争が無くなり，新たな戦争が起こらない様になる一歩になればと思います。

「平和　ｉｓ　ｂｅｓｔ！」

東京学芸大学附属小金井中学校　一年　西澤　徳香

「すごいなぁ…。」
久しぶりに原爆ドームを見て思った。２年生の時と目線が変わったからだろうか？とってもこの光景が重く深く感じられた。そして，７０年は草木がはえないと言われたこの土地には，自然がたくさん見られたということにもっと感動した。

１日目に鶴をお供えして，クルーズ船に乗った。その時の被爆クスノキ。ものすごい，生命力だなと思った。もっと，生き続けて後世の人たちに伝えてくれたらなと思う。つぎは，爆心地に最も近い「本川小学校」へ行った。そこの資料館には被爆した物がおいてあった。その中で一番びっくりしたのが爆風でとけたガラスである。原形もなくなってしまっていて爆風や熱線の威力におどろいた。ホテルに帰る時に路面電車に乗った。旧式のが減り，新しいのが増えていてびっくりした。

２日目は，平和記念式典に参列をした。黙祷をしている時の鐘の音。
「ゴーン，ゴーン，ゴーン」
一つ一つの音が心に響いた。そしてこの音が，世界中の人々に届いたらなと思った。特に今戦争をしている人々に…。この音を聞いて心の底から人の命の重み，大切さを感じ取ってほしい。そう思った。飛んで行ったハトにのせて…。式典が終わると平和資料館へ行った。そこは，言葉に表せないくらい悲惨なものであった。ココにおいてある物すべてが一瞬のうちに無くなったモノと考えると。その中で一番心に残ったのは，「影」である。人がとけてレンガにそのあとが残ったものであった。一秒前までは，元気に生活しているはずだったのに…。ココでは衝撃も大きかったが，一番感じたコトは「怖い」という一言である。夜は，灯籠流しを行った。一人一人の願いを込めて…。私は，「Ｐｅａｃｅ＆Ｐｅａｃｅ　世界平和を」と書いた。逆さになって，沈没している物が多いことは残念だが暗くなるにつれて，きれいに光るのを見て天国にみんなの願い，メッセージが届いたらなと思う。

最終日は，被爆者から話を聞かせていただいた。
「一度こわれた染色体は二度と戻らない。」
これがどれだけ重いことであろうか。ガンになりやすく１９回も手術されたそうだ。１９回。これは，おどろきの数字である。又，原爆症。放射線の恐ろしさ。大腸のべん毛がすべてかり取られてしまう。下痢が続く理由が，べん毛だったとは…。そして，白血球がなくなったので熱がおさまらない。菌に対抗できない。なのに，生きているのはすごいと思った。こうして，生きている方の話を聞くことができて良かった。

最後に，この現実をよく知らない人がいるのなら，もっともっと知ってほしい。そして，Ｐｅａｃｅ，平和とは何かと考えてほしい。日本のみならず，世界の人々に。そうすればきっと答えは分かるはずだ。平和は大切だと。

「私たちの責任」

帝京大学中学校　二年　友永　英利菜

原爆ドームは戦争の傷跡の１つです。原爆による熱線と爆風で建物は大破，全焼し，中にいた人全てが亡くなりました。原爆ドームは写真で見るよりも無残な形でした。ドームの中は外から丸見えで，建物はほとんど崩れている状態でした。ああ，ここには色々な歴史もあっただろうし，中には人もいたのに…。そういったものが，一瞬でなくなってしまった。それを思うと胸が痛くなりました。積み上げられたものも壊すのは簡単なんだ…。つくづくそう感じました。

戦争が残した傷跡は建物だけではありませんでした。人々にも戦争の爪痕が残りました。

被爆者体験証言者の中に兒玉光雄さんという方がいらっしゃいます。兒玉さんは私と同じ中学生の時に被爆されました。爆心地から８７０メートル離れた学校の校舎内で自習待機をしていたそうです。被爆したのは３０７名でその中の８０名が脱出し，１９名が生き残り，今生きていらっしゃるのは，兒玉さんを合わせてたったの２名だけです。しかし兒玉さんは健康ではありません。放射線の影響で染色体が壊れ１９回がん手術を受けられたそうです。兒玉さんのように助かってもがんなどの病気にかかり，苦しむ人や命を落とす方が大勢いました。まだたったの１２歳だった兒玉さんは校舎の中で助けられず死んでいく友人を目の前で見ていたそうです。兒玉さんは最後に「核と人類は共存できない」とおっしゃっていました。

私は同じ人類同士で戦争をし，核兵器をいつまでも保持し続ける今の時代が不思議です。皆，一緒に核兵器をもう持たない。と言えばいいだけなのにと思います。なぜそんな簡単な事ができないのでしょう。

そして集団的自衛権の行使や九条解釈改憲，特定秘密保護法のことをなぜ何も言わない国民が沢山いるのでしょうか。軍隊を持つようになるし，平和の象徴である九条が，権力を縛る鎖が，なくなってしまう。その上情報を戦時中の様に隠してしまうなんて，そんなことをしたら日本は終わってしまう。今回を通して私はそう思い焦るようになりました。

二度と戦争をしない唯一の被爆国として，日本の歴史を学び後世にも伝える事，核兵器廃絶を世界に呼びかける事，それが私達日本人の責任だと思います。

戦時中多くの人々の願った平和，その思いがどうか消えてしまいませんように。平和な今を生きる私の願いです。

「原爆の恐ろしさ」

調布市立第四中学校　二年　久保田　陽花

私はこの夏，調布市制６０周年行事の平和派遣で，広島の原爆の式典に出たり，たくさんの貴重な体験をしました。知らない人と行くという不安もありましたが，すごく，広島に行ってよかったと思います。

１日目，原爆ドーム，原爆の子の像に行きました。原爆ドームでは近くで見ると，テレビではわからない悲劇が感じられました。ボロボロになり，空洞になったドームは見ているだけで悲しくなりました。原爆の子の像の近くには，たくさんの千羽鶴がありました。それは，各地から来た人がつるした物でした。それだけ今，平和を願っている人がたくさんいるのだと思います。

２日目の記念式典。広島の市長さんなどのお話を聞き，本当に平和な世界になると良いと思いました。その後，平和資料館にも行きました。そこには，原爆の爆風で変形してしまった，缶・なべ・時計などが展示されていました。一発の原子爆弾が全ての物を破壊してしまう事を知り，とても恐ろしく感じました。

３日目には，実際に被爆された方のお話を聞きました。学校のプールの水は人の血で赤く染まり，また，広島の空は辺りを３日間焼き尽くした煙や灰で覆われていたという事でした。原爆の恐ろしさを改めて感じました。

私は広島に行き，被爆ガンというものを知りました。その被爆ガンによって今でも大勢の人が苦しんでいるという事，そして，その被爆ガンの治療方法も未だ見つかっていないという事でした。原爆投下から７０年経った今でも当時の苦しみは続いています。

人生が狂ってしまう戦争，原爆はもう二度とあってはいけないと思いました。話しをして下さった人が最後に言った，「核と人類は共存出来ない」という言葉を胸に，戦争のない世の中にするために何が出来るかを考えて生活をしていこうと思います。

「広島平和派遣で学んだこと」

創価中学校　二年　草竹　美穂

私は，平和派遣で初めて広島に行きました。広島で最初に見た建物は原爆ドームです。写真しか見たことがなく，そこまで勉強していなかった私にとって，とても衝撃的でした。外から見るだけでも，中のがれきやはがれかかっているものなど，はっきり見えました。写真で見て想像していたより遥かにボロボロで，被爆当時の事を考えると心が痛みました。

原爆ドームの後に行った原爆の子の像は，世界中の人たちが訪れていて，亡くなってしまった人の事を祈っていたので，平和を願っているのは皆同じなのだと改めて実感することができました。また，当時１２歳だった佐々木禎子さんが深く関わっているこの像に，調布市の平和への思いが詰まった折り鶴とともに，自分の思いを書いた短冊をかけました。数え切れないほど多い折り鶴があり，すごいなと思いました。

私たちは，終戦から７０年の節目の年に平和記念式典に参加することができました。小学生の平和への誓いを聞いたとき，平和派遣に参加する前まで感じていなかった広島県の平和への強い思いが伝わってきました。

最終日に，中学１年生の時に至近距離被爆をした男性から被爆体験談を聞かせていただきました。この体験談では，被爆をされ生存した方は原爆による放射線の影響で２回は癌になってしまったこと，原爆が広島に落とされる前にターゲットの偵察のためにＢ２９機が広島市上空に来ていたことなど，初めて知ることがばかりでした。体験談を聞くことによって，本を読むより現実味があり，遠く感じていたことも，今同じ時代に戦争経験者がいる事を考えると少しですが身近に感じました。

私が広島県に行って沢山見聞きした中で，一番忘れられないことがあります。広島平和記念資料館で見た展示物です。原爆のせいで亡くなった学生が持っていた，黒焦げになってしまったお弁当の中身，焼けてボロボロになってしまったワンピース，終戦間近で受け取った徴兵の紙，原爆と同じ大きさの模型など沢山ありました。怖すぎて勇気が出せず，見ることができなかった展示物もありました。この資料館を出たとき，絶対に同じ過ちを繰り返してはいけないと心から思いました。

平和派遣で感じたこと，考えたこと，学んだことは沢山ありました。派遣に参加する前より，戦争・平和に対する意識が確実に重いものに変えることができたと思います。また，計画の合間に旅行のような感じで新しくできた友達と楽しむこともできました。

今回，貴重な体験をする事ができたので，この体験を絶対に忘れず，沢山の人に伝えていきたいと思いました。

広島平和派遣を企画してくださり，ありがとうございました。

「七十年前と私」

調布市立第八中学校　二年　中本　美羽

７０年前の広島は，どんなだっただろう。行った後ですら，考えてしまう。

私が広島に行く前，私ははだしのゲンのマンガや，教科書で知識を少しつけたつもりでした。ですが，原爆ドームの大きさや，資料館内の資料，講話は，私の知識にないような予想外のことばかりでした。

初めて原爆ドームを見た時は，その大きさ，荒れ果てた姿に，言葉がでませんでした。私は，「大変なところに来てしまった」と思いました。教科書で見たものを想像していましたが，原爆ドームの内部の荒れて，がれきが残っている様子や，むき出しの鉄骨は，私の予想を大きく上回りました。

「こうはなるなよ」

原爆ドームがそう言っているように思えました。私は，「そのつもりです」と心の中で返しました。

資料館の資料は，さらに私の想像を上回りました。写真の中の人と目が合ってしまった時には，心の中が悲しさでいっぱいになりました。資料を見るのは辛いです。それ以上に，被爆者の方々は，もっと辛かったと思います。

小さな展示ケースの中にはおさまりきれない思いや，悲しみが，資料館には溢れていました。同じ学年の女の子の遺品は，見ていて本当に悲しくなってしまいました。その子の目を見て私は「繰り返さないから。絶対」とその子にちかいました。

講話も，本当に言葉を失う残酷さでした。一番印象に残っているのは，他のクラスの人達が，校歌を歌いながら，死を覚悟した場面でした。まだ中学生なんです。私達と同じ，何の罪もない，普通の。死ぬにはずい分早い歳の中学生が，死の覚悟をするなんて，おかしいのです。そして，それを目の前で見なければならないということもおかしいのです。

私は心の中で泣いていました。

７０年前，人の死体の中に立っているのが，もし私だったら。人を見殺しにしなければいけない苦しい判断を選ばなければいけないのが，私と家族の間での場面だったら。言葉になりません。想像もつきません。

７０年後の今は，７０年前に比べて平和です。でも，今は核社会です。核のどこが良いんでしょう。何がそんなに恋しいのでしょう。

人の命を亡くしてしまうことは法によって裁かれてしまいます。もし，現在の私達のもとに，原爆が落とされたら，誰が裁かれるのでしょうか。誰が喜ぶのでしょうか。

世界中の全員に，考えてほしいことは，平和です。核と人は共存できません。

この原稿用紙におさまりきれない私の平和の思いを，誰かに伝えたいと思いました。

７０年前を考えることは，今を考えることです。７０年前からの命のバトンが，私達に回っています。戦争も，核も，小さな争いもない世界が，一番重要なんだと思います。

「広島平和派遣を終えて」

調布市立第六中学校　三年　安岡　弥香

私は，自分に都合の悪いことはどこか聞き流してきたような気がする。広島平和派遣を終えて，暗い話や辛い現実をたくさん知った。その中で印象に残った事が三つある。

一つ目は，実際に初めて原爆ドームを見て，衝撃を受けたことだ。それは，熱線と爆風で建物が大きく壊れ，壁を覆っていたレンガもほとんど剥がれ落ちていた。そして，建物の一番上のドームの部分は鉄筋が剥き出しで，屋根といえるものは何もなかった。教科書や本で見ていた原爆ドームとは全く違う印象で原爆の恐ろしさを直に感じた。原爆ドームは爆風をほぼ真上から受けたため，圧力に対する耐力の強かった部分は残ったが，その外の建物はもっと被害を受け，本当に地獄と言えるような状態だったのだと思った。７０年前からずっと同じ場所にあり続ける原爆ドームは，原爆が落ちたときから時が止まったかのようで，私は７０年前にタイムスリップしたかのような不思議な感覚になった。

二つ目は，平和記念資料館で当時の状況を写真や資料から知れた事だ。

原爆投下直後は，熱線，爆風，放射線による被害で，広島の町は壊滅的な状況だったと分かった。展示されている写真は，とても惨いものだった。中でも印象に残っているのは，熱線により着物の柄が皮膚に焼きついた女性の写真だ。４０００度もある熱線に焼かれた女性は火傷を負ったときも，とにかく痛かっただろうと思うが，その後も長い間その怪我で苦しんだろうと思うと胸が痛くなった。

また，遺品からも当時の様子を知ることができた。焼けこげたワンピースや通学用のカバンなどから，亡くなった人はもっと生きたかったと思っただろうと思う。そして，それらの遺品からはやはり人が使っていたものなので温かみが感じられた。

三つ目は，被爆体験証言者の講話で兒玉光雄さんのお話が聞けた事だ。講話を聞いて，どんな被害にあって，どのような状況でどうなったのかという事を学ぶことができた。

兒玉さんは，爆心地から至近距離の学校で被爆したが，無傷だった。しかし，その後すぐに高熱が出て，一命を取りとめたものの，たくさんの病気にかかり，熱線で染色体にも異常が出た。兒玉さんの染色体の写真を見ると，染色体の長さがばらばらで長さがそろっているものが少なかった。私が今こうして元気でいられるのも，日本が平和だからであって，健康でいられることに感謝したいと思った。原爆の放射線は何十年たっても被爆した方を苦しめ続けている。そして，被爆者の方の戦争は未だ終わっていない。

戦後７０年の節目の年に学んだ戦争は良い経験になった。これから学校の友達などに学んできた事を話したいと思う。そして，平和な世界に早くなってほしいと強く思った。

「広島で得たもの」

調布市立第七中学校　三年　新行内　音々

受験勉強の中,私は広島に行きました。行く前,勉強という文字が私の頭をよぎりました。ですが，行ってみると，その文字がもっている意味が変わりました。今までの勉強は，机に向かって知識をつめ込むものでしたが，広島では感じとって学ぶことに変わりました。

受験生なのに私は行って良いのかという不安,行ったことのない場所へ知らない人と行く不安，様々な不安は，この３日間でなくなりました。１日目に行った原爆ドームは，私は社会の教科書でしか見たことがありませんでした。この３日間で見たもの全てそうでしたが，実際行ってみると，感じることが違いました。原爆ドームは，写真では見ることのできない裏側を見られました。原爆の悲惨さ，被害の大きさは，写真の何百倍もの迫力があり，圧倒されました。リバークルーズでは，普段見ることのできない角度から３６０度を見まわすことができ,心の中に刻まれました。1日目の夕食では,朝とは違く,みんなフレンドリーで,誰とでも話すことができ，穴子めしもカキフライもおいしく食べられました。

２日目の平和記念式典では，大勢の人の中で参加したことが誇りとなりました。資料館では，感じることがとても多く，どれも心に残りました。一つ一つにそれぞれのメッセージがあり，とても考えさせられました。広島城では，その時代の背景や，時の流れ，また展望台からの眺めはとてもすばらしかったです。釜めしは，普段食べている炊き込みご飯とは違った味がありました。とうろう流しは，とても感動しました。自分で作ったものを流せる喜びと，カラフルなとうろうが流れていく景色のきれいさがとても感動的でした。

３日目になると，１日目２日目で感じとったものが心に残っていて，心がぎゅうぎゅう詰めでした。被爆体験をされた方の講話では，広島に行かないと絶対に聞けないと思うことを生で聞くことができました。その人だから言えることが詰まった講話でした。恐ろしさ，悲惨さ，その後の悲しみ，つらさ，様々なことを聞き，声が出ないほどでした。お昼のお好み焼きは，東京の物とは違った味でした。大きさはそんなに大きくはありませんでしたが満腹になりました。

この３日間の思い出，感じたことは書ききれないほどたくさんあります。また，行く前と行った後では，自分の思考が変わりました。私はすぐに弱音を吐きます。ですが，被爆されて生きている方々は，今まで何事もあきらめず生きています。私はこの３日間で弱音を吐かなくなりました。むしろ吐けなくなりました。今まで懸命に生きている方の話を受けついで行きたいと思いました。勉強と一言でいっても種類があります。この３日間は,私の人間性,将来への何かを育ててくれました。ありがとうございました。